

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二第 卷九十二第

行發日一月八年四和昭

論叢

清涼飲料稅論 法學博士 神戶 正雄

限界經濟學と制度經濟學 文學博士 米田庄太郎

勞銀の理論 文學博士 高田 保馬

說苑

經濟學史基礎論 法學士 石川 興二

幕末の商社 經濟學士 菅野和太郎

セイの販路說に就て 經濟學士 谷口 吉彦

シュピイトホフの景氣循環論 經濟學士 靜 田 均

雜錄

伊太利の財政經濟近況 經濟學士 有井 治

經濟理論と經濟史 經濟學士 堀江 保藏

近著外國經濟雜誌主要論題

(禁 轉 載)

雜誌 錄

伊太利の財政經濟近況

有 井 治

伊太利は國土狹隘にして人口多く天然資源の乏しき慢性の輸入超過國である、此點に於て伊太利は我國に類似する點多く、従つて伊太利の經濟狀態は、他の富裕國の夫れよりも、却て我國にとり参考となるべき所が多い。特に最近には金解禁が我國の時の問題となつて居るのであるが、恰も伊太利に於ては一九二七年一月二二日の緊急勅令を以て磅に對し九二・四六利の新評價を制定し金爲替本位を採用したのであつた。かくて伊太利は從來の動搖多くして不安定極まる投機的活動の時期を閉止し、安定不動的なる生産的活動の時機に入つた。乍併一時期より他の時期への轉換は急激に偶發されるものでなく、恰も昨一九二八年は貨幣價

値の建直しにより安定せる新時期へ進む過渡期をなしたのである。この過渡期に當る一九二八年に於ける伊太利の財政經濟狀態をミラノ王立大學教授モルタ氏が記述してゐる。以下、人口と農業と工業と商業と外國貿易及び金融と財政との六項に分ち伊太利の財政經濟狀況の概要を紹介すると、次の如くである。勿論貨幣價値の安定は此の時期經濟狀態の決定的要因であつたが、他の事情特に人口の激増狀態維持と移民の抑壓及び農業方面に於ける天候の不順等も亦かなりの影響を與へたものなる事は注意を要する。

一、人口 伊太利人口は一九二八年には急激な増加の勢を維持した、即ち出生數一〇六萬四千、死亡數六三萬九千、故に海外移民數を考慮に入ると時は約四〇萬人の純増加があつた。此の年末に於ける人口總數は約四、一二〇萬人である。海外移民數に關しては精確な數字は得られないが少數なりし事は判る。移民の抑壓は昨年の特徴をなすものであつて、此事は新移民の充溢を避けんとする來住移民國の政策と、伊國が有効

1) Giorgio Mortara, (Tr. par G. Bourgin); La vie économique en Italie. —Revue d'économie politique. Mars-Avril, 1929.

理的耕作方法の採用を獎勵し、且賞與又は榮譽を與ふる方法により最も技術的且巧妙なる耕作者を賞揚する時は、耕作者間に競争を惹起し、現在不完全又は全然耕作せられざる土地に集約的耕作をなさんとする改良勞作が迅速に實現せらるゝものである。かゝる熱心勞力は人口増加の現狀に於て表面的一時的のものでなく、民族の肉體的・道德的健全の徵表であり且生活標準 (Standard of Life) を低下せざらむが爲には不可避的のものである。

尙世界的穀物の増産・大麥價格の下落・歐洲の或國々に於ける砂糖の生産過剩等は伊太利市場に激烈なる競争を惹起し、大麥及砂糖の輸入關稅の引上げを餘儀なくせしめてゐるが、之は引上理由の消滅と共に撤回せらるべきものである。蓋しかゝる關稅の引上げは必需品の價格を騰貴せしめ、爲に農工業に於ける生産費を高騰せしめると云ふ重大なる影響を伴ふからである。

以上農産物の減少に對し天候の不順より見る時は利貸建直しの影響は二次的なものであつた。又或る場合

には耕作物の轉換の爲と、貨幣建直しに因る生産物資却困難の豫想の爲に耕地面積の減少された所もある。乍併農家は物價の急速なる下落・耕作費特に化學肥料の購入及使用の節減を餘儀なくせられた事等によつても收穫は減少したとも謂へるのである。

農業に於ける罷業は増加した月もあるが全體としては増加したとは云へない、即ち一昨年末は總計約一三萬件にして昨年末は約一一萬件となつてゐる。

三、工業 貨幣價值回復の工業に對する影響は重大なるものであつて、生産費を新物價水準に適合せしむるに苦心せしめたのである。鑛業及び機械工業の狀態を示す鋼鐵の生産額は一九二六年より減少し二七年九月には最低額一一萬四千噸に減少したものが、二八年春より漸次増加し年末には月額平均一六萬四千噸となり、伊太利に於て記録せられたる最高生産額を示すに至つた。この繁榮は恐らく一面保護的手段により輸入品に内地生産品が代用せられた事に因るが他面交通業等の繁榮による需要の自然的増加にも基くであらう。

製造工業樞要の地位を占むる纖維工業に貨幣價值安定後不況となり、生糸及び人絹方面には一の恐慌状態をさへ惹起した。併し昨年中には全く改良されて、綿糸の輸出は一九二七年の二一萬八千片が二八年には二五萬六千片となり、綿布は四九萬五千片が五三萬五千片、毛織物は六萬五千片より七萬二千片に、麻糸は五萬六千片より六萬五千片に、生糸は五萬二千片から五萬六千片に増加した。絹織物・混紡織・人絹等も増加してゐる。以上多くの場合に於て在來の外國販路が、單に維持せられたるのみならず、勞賃並に利潤の下げにより著しく價格を低下せる爲に擴張せられたのである。貨幣安定直後の年に於て斯の如き著しき輸出の維持發展の跡を残し得た事は眞に斯業の爲慶賀すべきであり、又斯業輸出の擴張に當て小部分なりしとは云へ貨幣價值減少に對し効果ありしのみならず、大なる部分に於て伊國經濟の優良分子を表すものである。

金屬・機械及び電気工業の繁盛は前述鋼鐵の生産増加の裏に原料品輸入の増加を示すものである。鐵板及

び錫鍍鐵の輸入は二七萬五千噸より四八萬噸に、銅は六三萬四千噸より七八萬九千噸に、鉛は一六萬七千噸より二七萬一千噸に、亞鉛は九萬六千噸より十萬三千噸に増加してゐるが、此種生産物の大部分は内地に於て需要せられるものである。唯例外は自動車工業で、一昨年三三、一二輛の輸出ありしものが、昨年には二八、二八〇輛に減少してゐる、これは歐洲各國共通の現象であつて主として米國の進出に原因するものである。

此他、化學工業は一方貨幣價值建直しのため製品の價格下落と他方例へば磷酸肥料等の如く需要減退の影響を受けたが、昨年來恢復した。食料品工業中糖業は一九二七年の甜菜凶作と外國の競争とに因り不振となつたが、昨年は豊作に恵まれたると保護關稅により復興した。植物性製油業は増進の勢を維持し、又食料品工業中例へば製粉業の如きは多少貨幣安定化の影響を蒙受けた。建工業は家賃關係の障礙から住宅投資を妨ぐる爲に減退しつゝあり、建築材料工業は公企業²⁾の爲

2) 伊太利政府の家賃制限政策は大戦終息後の一特徴である。本文は多分1927年1日に施行された家賃の10-20% 引下げの法令を指すのであらう

め一時的好況を呈してゐる。

電力の消費量は伊太利工業の一般的指數とも云へるものであるが、一九二七年の九〇億キロ・ワットが二八年には一〇〇億キロ・ワットとなり、水力電氣は現在の設備では一二〇〇億キロ・ワットの發電は些程困難はない。しかし尙増設の傾向があるから本年は一段の發電力を示すであらう。石炭は一昨年の千五百萬噸、昨年は千二百屯に減少してゐる事は確である。一昨年英國炭坑争議の爲め殆ど使ひ果されたストックを再構した様に見受けられる。他の動力元も大なる増加を示すものであるが、殆ど石油(一九二七年八六・四萬噸)によつて占められてゐる。

商工業に於ける同盟参加者数は一月の三一萬三千人より七月には最少一九萬七千人となり十二月末には二五萬八千人(一九二七年の同期は二八萬三千人)となつてゐる。乍併此官廳の數字は罷業の實況を完全に反影するものではないから、吾人は確信を以て戒心すべき比例に非る事を斷言し得る。公的勞働及び政府の採用せる大企業改良

の政策は罷業を減少せしむるに貢献したのである。

四 商業 内國商業は一九二七年下半年より二八年初頭に減少し、其後直ちに増進してゐる。國有鐵道の運般貨物噸數、伊太利諸港の船貨取扱噸數も何れも此消息を傳へるものであり、經濟繁榮の回復を示すものである。

外國貿易額を新貨に換算表示すれば次の如くである。單位百萬利^リ。

年 度	輸 入	輸 出	輸入超過
一九三	一四、九七〇	九、六六三	五、三〇七
一九四	一六、〇四三	一一、〇〇一	四、〇四二
一九五	一九、八六〇	一三、八五三	六、〇〇八
一九六	一八、九九五	一三、七〇〇	五、二九五
一九七	一九、七六四	一五、一六三	四、六〇一
一九八	三三、〇四三	一四、五五元	一八、四九三

一九二八年の外國貿易の變遷は或程度に於て前年の逆であり補償でもある、故に前年の事情を顧慮せずしては兩者の比較は出来ない。一九二七年は物價の著しき下落のため人々は生産物の手持を急遽賣却し生産を

抑制し且原料品の貯藏をも差控へたのである。然るに二八年には一旦物價の安定が得らるゝや、生産物の輸出は復舊し生産活動は旺盛となり原料も貯藏せらるゝに至つた。乍併吾人には興味ある他の事情が之に競合する、即ち一九二七—八年の或種收穫の平凡なりし事は例外的に多額なる食料品の輸入を必要とし輸出の困難なると共に、國際競争の激烈化例へば人絹・自動車等の重要輸出品の發展を阻碍するのである。要するに過渡的性質を有する若干要素の消去さるゝ時は、持続的且急速なる人口増加により輸入超過の傾向を大ならしむるものありと雖も、恐らく貿易差額の不足は最も近き將來に於て減少するものと考へられる。

五、外國爲替及び金融 外國爲替相場は昨年前半は順に後半は逆となつた。即ち最初の四半期は紐育に於て百利に對し五、二八八弗なりしものが、次の四半期には五、二六九となり、第三の四半期には五、一三五、最後の四半期には五、一三七と漸落した(但し平價は五、二六三弗)。對米爲替に於けるかゝる傾向は歐洲各國共通の現象で

あつて、例へば法相場の如き最も類似するものである。

割引歩合は昨年七%から五・五%に引下げられてあつたのを本年一月六%に三月七%に引上げた。其の目的は疑もなく短期資金の利用を長期のものと代替せしめ爲替相場を有利ならしめんとする所に存する。

伊太利銀行紙幣の流通額は一九二七年末には一、七九九萬二千利を示したが昨年末日には一、七二九萬五千利に減少してゐる。流通紙幣の總額は更に大なる割合を以て減少し一、八七七萬五千利から一、七四六萬五千利となつてゐる。政府紙幣は補助銀貨と代り殆ど流通してゐない。本年に入つては流通紙幣は更に減額を示してゐる、蓋し物價下落と輸出奨励輸入抑壓との爲に、及び發券銀行自身の資金を擁護せんが爲である。

物價・生計費・地金價格等は殆ど變化がなく、貯蓄銀行預金も大いに増加してゐる。卸賣物價指數亦變化少く、小賣物價指數も亦大體或限度内の動搖に止つたと云ひ得る。取引所相場の動搖した事は勿論である。

六、財政 伊太利財政は貨幣の建直しに依つても大した紊亂なく維持せられた。一九二七—二八年の會計年度は前年度と大差なく、僅少の剩餘を残して決算せられた。今最近七箇年の歳入・歳出・及び各年度末の國債を新貨に換算して示せば次の通である。單位百萬利。

會計年度(自七月一日至六月卅日)	歳入	歳出	剩餘(+)又は不足(-)	年度末の内國債總額
一九三—三	一六、六四三	一六、六三三	(-) 一、〇一〇	八三、三二九
一九三—四	一七、三九九	一七、七四三	(-) 三、四四	七〇、三三九
一九四—五	一六、四九〇	一六、一五九	(+) 三、三三一	六六、八六三
一九五—六	一五、八四三	一五、四九四	(+) 三、三四九	六三、〇六一
一九六—七	一七、三三三	一六、八八五	(+) 四、四四八	六〇、六三〇
一九七—八	二〇、四三三	一九、六六六	(+) 七、七六七	六〇、四四六
一九八一(自六月)	一九、三三三	一九、三三三	(+) 〇	三、七〇〇
一九二六(至十二月)	九、一五九	九、三三三	(-) 一、一七四	〇

同單位に換算する時は一九二七—二八年度の歳入出は利貸切下げの爲め利貸の最も下落せる一九二五—二六年度に比較して約二九%の超過であり、本年度の剩餘は前年度より更に増加する様に見受けられる。又内國債は一九二六年六月三〇日に比較すると一九二八年十二月末日には既に三〇%の増加を示してゐる。之等

の比較は伊太利國民が貨幣建直しに如何に大なる努力を惜しまなかつたかを示すものである。現在租稅收入は地方稅を包含せしめて、歐各國と略と同比例たる金收入の二三—二四%を占めてゐる。伊太利政府に殘されたる最も困難なる責務は經費節減の問題である。蓋し現時の過重負擔輕減の爲に、國際的競争場裡に於ける伊太利農業及工業狀態の改善の爲に、而して伊太利經濟の發展がより自由により、迅速に獲得せられんが爲に必要なのだからである。

× × ×

以上要するに、伊太利經濟活動が貨幣價值安定に續く不況時代を経て發展狀態に入つた事は何人も之を否定することを得ないであらう。新時代は今其端緒を開いたのであるが、今後幾多の困難を排除して益々完成に赴かんとするものである。即ち政府の生産界を質量双方共に改善せんとする施設及び商業特に輸出貿易に於ける組織の完成化への努力、大銀行と實業界の大部分が産業を集中整理せんとし一般的には技術と經濟の

觀點よりする産業合理化の組織、國家の組合的會社的機關が産業界に於ける各階級の利害の協調及びかかる利害の國民的利害とを調和せんとする配慮等、凡ては伊太利國民經濟のより大なる而してより完全なる發展を企畫せんとする條件をなすものである。
